

いまさら聞けない...

キャッシュフロー表に関する素朴な疑問ABC

杉山明
バムスコーパーション有限会社
取締役社長 CFP®

CF表を作成する際、期間や年齢、スタート時点を設定する必要はあるが、これに関して、どれくらいの期間にするか、いつを起点にするかなど疑問に思ったことはないだろうか。ここでは、そんな素朴な疑問にお答えする。

1 CF表の作成期間は何年にする？

「キ」

キャッシュフロー（CF）表を作成するとき、どの程度の期間を考えればよいだろう」という疑問を持ったことはないだろうか。

リタイア時に退職金を受け取って急激に伸びる。そしてその後、資産を少しずつ取り崩していくというイメージである。

答えを先に言ってしまうと、「CF表の期間は1年でも50年でも構わない。ただし、何のためのCF表であるのか、その目的にあったCF表を作成すべきである」となる。

基本となるライフプランモデルが有用でないわけではないが、このモデルを使って相談を行うのは結構大変である。

おそらく一般的にFPが考えるライフプランモデル」として表されているようなものであろう。ここでは、資産は徐々に増えていき、

30代の夫婦から相談を受けたとしよう。一般的に、30代の夫婦が老後資金について相談することは少ない。多くの場合、「老後が気になるわけではないが、まずは子どもの学資資金が心配」、あるいは「住宅を購入したいが、い

くらの住宅なら購入できるか」といったことが相談の中心であろう。それならば、学資資金や住宅購入に焦点を当てた話をすればよい。

表した、基本的なライフプランモデルの派生型モデルにもそのまま当てはまる。

老後の生活を考えるなら配偶者90歳までを設定する

基本となるライフプランモデルが必要になるのは40代後半くらいからかもしれない。筆者は「配偶者が90歳までをCF表の期間として設定する」ことをおすすめする。

図表1には、シニアライフプランモデル、学資モデル、相続モデルという3つの派生型モデルを紹介している。このほかにも、住宅購入モデル、資産運用モデルなど、CF表にはたくさんの派生型モデルが考えられる。

一般的に女性が年下の夫婦が多く、また、平均余命は女性のほうが長い。したがって、最後まで生存しているのは奥さまというのが一般的である。

こういったモデルはそれぞれ、焦点を当てべき期間が異なる。目的に合った期間を設定すれば、たとえ1年であっても、立派なCF表になるのである。

このことは、図表1の中で「シニアライフプランモデル」として

CF表の期間を考えることは、CF表の目的そのものを考えることにつながる。じっくりと考えてその期間を設定してほしい。

2 CF表の年齢はいつ時点のものを使う？

「C」

F表の年齢はいつ時点の年齢を使えばよいのか」という点も素朴な疑問である。その答えは、「CF表の期間（1年）の期末時点の年齢を使う」という

ことになる。図表2で示すように期末時点の年齢を使うルールで統一されている。このルールに疑念を挟む余地はない。

3 CF表の1年はいつから始まる？

「C」

F表の年齢はCF表の1年の期末時点の年齢であることを考えると、CF表はいつから始まるのだろうか。

正解は、「CF表の1年の始まりはいつでもよい」である。1月1日であっても、4月1日であっても構わない。9月20日というような独自のものにしてもよい。実

のところ、私たちの身の回りの1年はいつから始まっているのか統一されているわけではない（図表3）。

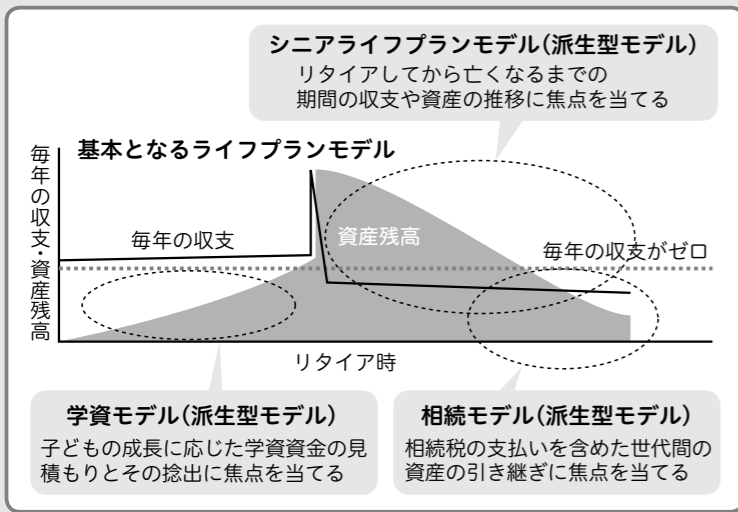
所得税は1月から12月までを1年として（暦年で）課税される仕組みである。そうすると、個人事業主のCF表の1年は、暦年ベースにするのがよいだろう。

日本の学校は4月に始まって翌年の3月に終了する年度を基準にしている。詳しい説明は後述するが、子どもがいる世帯のCF表は年度ベースで作成したほうがよい。会社になると1年（会計年度）は定款によって決められているのでまちまちである。

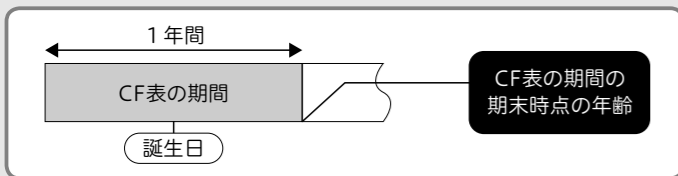
基準となる第1年度はきちんと1年分作成する

いつ始まりにしてもよいCF表ではあるが、避けるべきことがひ

図表1 基本となるモデルと派生型モデル



図表2 CF表での年齢



図表3 私たちの身の回りの1年の決まり

項目	1年の決まり
所得税	1月から12月までを1年とする（暦年）
各種学校	4月から翌年3月まで（年度）
会社の年度	会社によって異なる